

青果物直販事業における 流通の課題と提言

稲葉 健斗

【要 旨】

国内農業の担い手不足が深刻化しているが、農業就業人口減少には所得の少なさが起因している。売上の多くが生産者から消費者に野菜が届くまでの流通経費に割かれている。つまり、流通の中核を担っていた卸売市場が多様な機能で「合理的」な流通を志向した結果、多数の流通プレイヤーを介すこととなり、生産者の所得向上の阻害要因のとなっている。それに対し、全国農業共同組合連合会は直販事業を引き上げるという自己改革案を発表したが、多くの課題に直面して成功しているとは言い難い。直販事業でもって生産者の所得向上に資する流通網を確立するためには、青果物流通における課題を明らかにし、代替すべき既存の流通機能を取捨選択した上で、解決に向けて取り組む必要がある。以上の問題意識を踏まえ、本論文では既存の流通体系の現状と直販事業の現状に言及した後、流通課題を明確にした上で確立すべき青果物流通の内容について論じている。

【講 評】

本論文は、国内農業の担い手不足の主要因は生産者の所得が少ないことにあり、生産者の所得を増やすには流通経費を削減する必要があると指摘した。そこで、卸売市場が合理的な流通を確立してきた一方で、流通経費が高くなる背景を示した。続いて、その解決策として強化された全農の直販事業について詳述し、全農の商流と物流における課題を挙げた。更に、全農へのインタビュー調査による知見を織り込んで、それらの課題に対する提言を行った。本論文は、適切なデータや文献を用い、丁寧に理論展開するだけでなく、インタビュー調査を実施し、青果物流通全体に関わる流通の課題に対して理論的・現実的に提言した極めて優れた卒業論文である。